

めぐみイエス・キリスト教会

2022年4月10日(日)第二主日礼拝・午前10時
週報「通算第603号」



2022年標題聖句

第 I テモテへの手紙御6章17節～19節

《高慢にならず、頼りにならない富にではなく、むしろ、私たちにすべての物を豊かに与えて楽しませて下さる神に望みを置き、善を行ない、立派な行ないに富み、惜しみなく施し、喜んで分け与え、来たるべき世において立派な土台となるものを自分自身のために蓄え、まことのいのちを得るように命じなさい。》

第一礼拝(教会にて) 毎週日曜日 午前10時～11時

第二礼拝※中止

聖書の学びと祈り会 毎週水曜日 午後6時～(各家庭にて)

牧師 鈴木 竜 実
ますみ

※当教会は、モルモン教、エホバの証人(ものみの塔)、統一教会(原理福音)とは、一切関わりがありません。

◎礼拝プログラム

【前奏祈祷】

【賛美Ⅰ】 新聖歌316「御言葉なる」 p. 500

【交読文】 No.18 詩篇第50篇 p. 892

【賛美Ⅱ】 新聖歌101「イエスよ十字架に」 p. 141

【使徒信条】

【主の祈り】

【先週説教】

【賛美Ⅲ】 オリジナル曲No.2「ビジョン」

【聖書朗読】 **マタイの福音書21章1節～17節(新約p. 42上段)**

【礼拝説教】 《しゅろの日曜日》

【聖餐式】

【賛美Ⅳ】 新聖歌165「栄光イエスにあれ」 p. 235

【平和祈り】

【頌 栄】 新聖歌63 「父・御子・御霊の」 p. 85

【祝祷後奏】

●ポイント1.「旧約聖書の預言の成就」とは？

※ゼカリヤ書9章9節「娘シオンよ大いに喜べ」 (旧約p.1621下段)

9:9 娘シオンよ、大いに喜べ。娘エルサレムよ、喜び叫べ。見よ、あなたの王があなたのところに来る。義なる者で、勝利を得、柔和な者で、ろばに乗って。雌ろばの子である、ろばに乗って。

※詩篇118章26節～27節「主の御名によって」 (旧約p.1059下段)

118:26 祝福あれ【主】の御名によって来られる方に。私たちは【主】の家からあなたがたを祝福する。

118:27 【主】こそ神。主は私たちに光を与えられた。枝をもって祭りの行列を組め。祭壇の角のところまで。

●ポイント2.「私の家は祈りの家とよばれる」とは？

※イザヤ書56章7節「私の祈りの家」 (旧約p.1263上段)

56:7 私の聖なる山に来させて、私の祈りの家で彼らを楽しませる。彼らの全焼のささげ物やいけにえは、私の祭壇の上で受け入れられる。なぜなら私の家は、あらゆる民の祈りの家と呼ばれるからだ。

※エレミヤ書7章11節「私の名がつけられている家」 (旧約p.1300上段)

7:11 私の名がつけられているこの家は、あなたがたの目に強盗の巣と見たのか。見よ、この私もそう見ていた——【主】の言葉——。

●ポイント3. 「二回目の宮きよめ」の意味することは？

※ヨハネの福音書2章13節～18節「一回目の宮きよめ」(新約p.178下段)

2:13 さて、ユダヤ人の過越の祭りが近づき、イエスはエルサレムに上られた。

2:14 そして、宮の中で、牛や羊や鳩を売っている者たちと、座って両替をしている者たちを見て、

2:15 細縄でむちを作って、羊も牛もみな宮から追い出し、両替人の金を散らして、その台を倒し、

2:16 鳩を売っている者たちに言われた。「それをここから持って行け。私の父の家を商売の家にしてはならない。」

2:17 弟子たちは、「あなたの家を思う熱心が私を食い尽くす」と書いてあるのを思い起こした。

2:18 すると、ユダヤ人たちがイエスに対して言った。「こんなことをするからには、どんなしるしを見せてくれるのか。」

※ルカの福音書19章42節～44節「泣いて言われた」 (新約p.159下段)

19:42 「もし、平和に向かう道を、この日おまえも知っていたら——。しかし今、それはおまえの目から隠されている。

19:43 やがて次のような時代がおまえに来る。敵はおまえに対して壘を築き、包囲し、四方から攻め寄せ、

19:44 そしておまえと、中におまえの子どもたちを地にたたきつける。彼らはおまえの中で、一つの石も、他の石の上に積まれたまま残してはおかない。それは、神の訪れの時を、おまえが知らなかったからだ。」

◎先週の礼拝メッセージの概要【マケドニア人の幻】

《アンティオキア教会から二つの伝道チームが出発しました。一つは舟で、故郷キプロスに向かったバルナバとヨハネ・マルコ。そしてもう一つが、陸路に行くパウロとシラスでした。二人はデルベとリステラに行きました。そこで愛弟子テモテと合流し、ピシディアのアンティオキアに向かいます。そこからエペソやコロサイに向かおうとしましたが、み言葉を語ることを聖霊によって禁じられたのです。それゆえ、パウロたち一行は、港町トロアスに向かいました。パウロはこの地で、「マケドニアに渡って来て、私たちを助けて下さい」と、自分を招くマケドニア人の幻を見るのです。

さて、使徒の働きの著者はルカですが、16章6節では「彼ら」と書かれ、16章10節では「私たち」と書かれています。つまりルカが加わったと言うことです。それでは、なぜルカが、トロアスにやって来たのでしょうか。また、「イエスの御霊がそれを許されなかった」こととは、どのようなことなのでしょう。多くの聖書学者の意見は、この時パウロが体調を崩したことと理解しています。それゆえ、知らせを受けた医者ルカがアンティオキアから駆けつけたのです。クレネ人ルキオは、ルカと同一人物だと思われています。

パウロは、ガラテヤ書に『あなたがたが知っているとおりに、私が最初あなたがたに福音を伝えたのは、私の肉体が弱かった為でした。そして私の肉体には、あなたがたにとって試練となるものがあつたのに、あなたがたは軽蔑したり嫌悪したりせず、かえって、私を神の御使いであるかのように、キリスト・イエスであるかのように、受け入れてくれました。』と証ししています。ここから、第1回伝道旅行の時に、リステラで「石打ちの刑」にあつた時に、パウロに与えられた神様からの「トゲ」であることが分かります。それゆえに、「イエスの御霊が許されなかった」と言うことなのです。

この幻を通して、主イエスはヨーロッパ伝道への道を開かれます。やがてパウロとシラスによって、ピリピ、そしてテサロニケ、およびコリントの町々に福音が宣べ伝えられ、そこに教会が建設されることになるのです。》

◎お知らせ

※次回は「イースター感謝礼拝」となります。通常通り午前10時から行ないます。カツサンドなどで、軽食のひとはいかがでしょうか。